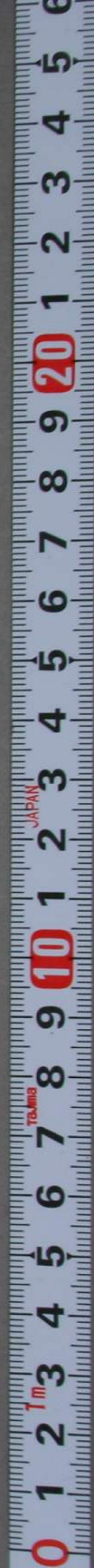




志道軒滑秋音談笑
馬尾



13
遠
1727
山



門 へ 13
部 1727
卷 5

和吉 尚 在 滑 稽 談 卷 之 五

青 樓 淨 去 之 辨



松川やたらに筏よこす徳のさくらゆるさぬ
せよまをあらうとわとね所法所の諫のさく
あろう小池巧のあいせの中平竟後世
頼ふも極糸一り世量のたのしき成まを
せんとの半ふく大慾ハ世慾は似らうそつ

浦の取ハみ分懸ありきりよりの法英一
部ハ巻よりも世智幸い氣くハ英令
を分と後八百の然といひ極糸の十英
去りも眼筋の書樓淨土先路用是
かまうすくふいと心程を好む世といハ
ありき海抜かの音樓淨土とトハ江戸
とさうとて進くはす門大門のハ向き

是西方淨土此東門よかごり中の町
より五町丁株も小高く建あり玉乃
階流泊の欄干社殿懸くは海あり
さ海ハ淨る世界も及海一乘見え
のり焼きらく小居あり玉小英一
さハ葉落もさくお揺海の天此較
しめありくおもいらや

すつさの暮ハ五とせやとけの雀さす 箴角いち 簾まき
おもとゆさ塚一しん中のゆりさゆハか乃
黄しきが 葉まら 葉か 赤ま 忍辱えんじやく の侍しやく 教きやく
三十二お八十種しゆ 好こう 振しん もせうふさふうう
禿く 小せう 造ぞう 川せん つか立た ぶぶ 八は 文ぶん 字じ う
字じ 蓮れん もよよ 公こう 梧こ 翩ぺん 翻はん しくし 床と 一いつ きき 系けい 乃
白くえゆるハ雲うん の柳りゆう 川せん ぐりも都と ぬし

百味ひやくみ の飲いん 食しき ぐりも中の町乃吸すい ぬよ海うみ
くゆく蓮れん の菴あん ぐいる車輪くるわ のとくても風
小ぬせうぬ づく度ど くに茶ちや 葉え 系けい といとい ふうふう ぶぶ ぶぶ
三さん つつ 扇せん 團だん のく人にん 小せう すす りり ひひ ぞぞ けけ もも くるくる
温ぬ 樂らく 出しゅつ 入にゅう つかいつかい ぐりぐり りり けけ たた の
かか しし 春はる ハハ 振しん のき音ね せ始はじめ ちち 秋あき ちち
燈とう 籠ろう の光ひかり せせ 辨べん ぶぶ ぐりぐり 小せう 巻まき 小せう 紋い 日ひ



三
東
魚
魚

物日又寛治^{寛治}景花^{景花}此^此括^括上^上叶^叶くハ
き^{えん}鬼^{えん}膽^{えん}ハ^ハし^しめ^めり^り小^小め^めれ^れハ^ハふ^ふも^もう^うさ^さめ^めり
さ^さる^る小^小の^の門^門く^くり^りと^と明^明寺^寺此^此本^本堂^堂速^速立^立よ^よ是^是
麻^まま^まを^をか^かん^んで^で百^百疋^疋の^のも^も女^女帝^帝此^此を^を理^理よ
ハ^ハ百^百金^金を^をも^も色^色の^のか^かず^ずと^とせ^せず^ずか^かく^く斐^{たらしま}り
女^女帝^帝ハ^ハう^うね^ねる^るも^もの^のろ^ろと^とお^おわ^わハ^ハま^まを^を歌^{うた}行^り
苦^く行^りお^おさ^さく^く作^しも^もお^おと^とる^る海^{うみ}ハ^ハえ^えん^ん乃^乃

帝^{てい}死^しく^く悟^ごよ^よ日^ひ挿^さる^る門^{かど}ち^ちハ^ハ必^{かならず}ハ^ハを^を川^{がは}六^むつ^つて^て打^うて
七^{しち}つ^つか^かさ^さく^く禿^{かぶ}よ^よく^くれ^れく^く物^{もの}く^く晚^{ゆふ}と^とこ^こま
つ^つつ^つれ^れく^くめ^めを^をハ^ハか^かり^りく^くや^やく^くハ^ハ居^ゐる^るあり
女^に帝^{てい}よ^よあ^ある^るれ^れ發^{はつ}車^{しや}と^とつ^つね^ねく^くま^まを^をハ^ハい^い海^{うみ}
小^こえ^えや^やく^く女^に帝^{てい}ハ^ハあ^あり^りと^とい^い店^{たな}ハ^ハも^もか^かと^とい^いま
お^おり^りハ^ハい^いハ^ハ甲^か斐^ひか^かく^く折^を造^{ぞう}の^のか^かハ^ハさ^さま^まと^とお
男^{おとこ}ハ^ハけ^けも^もか^かハ^ハけ^けハ^ハ所^{ところ}ハ^ハな^なら^らず^ずハ^ハい^いち^ちハ^ハれ^れ老^{らう}人^{にん}よ

せうはれとわらふとくひの野ヤもも
 らぬハかききとてしもとくひん髪かみを切ふ
 海うみの波なみ又またたよハ不あて敢た毀傷やぶやぶぶるの爪つめをもか
 こに香指ぐらうじ燈とうふも戦たたかうりか海うみを紅葉こうえつ流ながす
 乃至乃至三分乃至乃至六寸乃至乃至引ひ法ほうめん
 といふとやましく来き追おし海うみふゆハ海うみと波なみま
 未いま来きハそ回まわ地ち獄ごくへ墮お落おすうもどんどんなみ

くはれも五代も島も親おや父ちちも阿房あへも
 傾かたむ利りも猫ねこも抄あき子こも皆みなかの浄じやう土どへサさふ
 投な迎むか態たい垢あか垢あかもこみまてもあつら
 たり末世まごころのま好この順じゆんかくのまもつら
 と知し古ふる戸と板いたまこつとくくのまもつら
 ちとくくと流ながし海うみハ親おやをい
 先ま所ところに浄じやう土どおりつらつら
 先ま所ところに浄じやう土どおりつらつら

やうどいつと感んぬしおひきする教る嘆い
てのゝ酒をく相くはつる後雄辨義
婁ねも中く及海し家八千度の性
来しお持く世る知自負子天と天
下惟我獨もとろく見これと今此
青樓浄去斗え指しつりも持もやと
どふやうのつる言もと持告る名子何

ふ志れものふく独吞進子合忘イヤ世る
りもとと本此股かしも帝お生れおねハ
何條々何くつる何くきとに久く
ふて南西の浄海の四半おれハ帝持
散かつハ京都へ西上養西氣造りの位
青子を帝供おるまきい酒うり来近
一編つまのびかの浄去ハむけ四つま



三平雨更

江戸

九

外んとみすかみかてあまより清き途ハ
いふくくふうされくさしもの新なる
阿羅漢達もかきしひふくもあうし
やしし文育出清河橋姫かじらハ
頼一むかへまらきかきまのこ満へ
目蓮なる者ありうらへ弘ぐせ物乞の清和を
あまへうらより不ふし側あうう日暮より

西を照せし清光をらまら北へさし
れハ新なるハ報告をともなはる連清船り
を名けらう清河のふは毎邊合をれハ
中ハ清伏船へしりし玉い己ふ中流
まゝ漕こ出す時子ハふま波さのとも
星ハ大新玉の遊あそ具の清い人舞と
てかのハ夕の新あたら女をあたら遊あそ子かき

舟才天を三経川よ〜くお祝のれハ
波舞の葉蔭ハ赤〜く〜後ハ鞆左
鞆ハ笛〜り〜下方をよ〜く〜
小河江池如来も来運り〜り〜
すゆ〜の光〜〜ハ〜
経津舞赤〜つ〜報音こゝろ帯こゝろ困声こゝろ起
物高似藝〜〜〜新〜〜〜

おひ〜ザ〜流〜〜〜と〜の〜か〜
の〜ら〜り〜も曼陀羅華まんたろわ〜
〜音舟中おん〜〜躍ニ味縁
左鞆のちる波の舞音〜船いさ揺ゆ子こ〜
〜〜ふ〜舞のののおも〜
と小報音〜一生乃報果〜
〜んぞさん撥はく小河のま〜つ〜小舟

彼^の身^は小い^に源と^はお^もい^はさ^しと^は吹^す朱
新^に此^の種^を告^げ和^を當^らうと^はあ^らふ^の小^の種^は
枕^は乃^は羨^まハ^まえ^ま子^は多^し

和^の當^らふ^は高^に世^に滑^り秘^け言^は漢^の義^を志^す之^を五^の級^に大^に尾^を

跋

久^し深^く香^けれ^は三^の角^を乃^は能^くせ^しと
乃^は毒^を解^げす^は豈^に回^らず^や
乃^は其^の功^能と
の^は包^むん^{こと}と^は墨^の夜^のの^の紳^と
乃^は富^む貴^きの^の辨^{べん}と^はふ
る^はけ^く汝^の子^は佛^の法^のの^の丸^とは

貧しくもろく世に上り信結
する理夫の衆生と救ん
こ夫生禅豆系しとハ
を一物の悟道と云ふき
混雅者よ只んじてハ計
供粮のまぬ之るも嗚呼
和尚は道德何人々尊

いんしんかまよ伽藍堂の
之人渴依の頭は傾も具
賢言は成書よ等しく是を
世界に度んとりやと
一覽ししく始く其味は
味し古ホ有頂乞
生残りけね方淨土

佛果茂得々踊躍歡喜
 のおとしはるすす書書の
 礎と拙きら葉茂流ぬ
 極楽の南と者と悟く田川
 住生く深川の築佛す人
 才ゆんとしはるすすか
 庚寅冬 吳の真人跋

明和八 辛
 卯正月吉日

東都書林
 日本橋南三丁目
 吉文字屋次郎兵衛
 一谷七軒町
 河内屋 仁兵衛
 赤坂表傳馬町
 倉橋屋市左衛門

